



ゴール地点とコースの途中の2か所に設けられた給水所。「頑張っておつかれさまでした」の声と一緒に笑顔で元気づくドリンクが手渡されました。

## 舞台裏の立役者たち

「…子どもたちやオリンピックに出るっかんしれん…他人たちや、どぎゃん頑張ったっちゃ出られんけん…。違うゴールにゃ、はってかんごつ…。」スタート前の明るくユーモアたっぷりの声掛けで、大会の名物となっている「益城走ろう会」の村口省三さん。村口さんは、お楽しみ抽選会の面白おかしい司会としても大活躍をいただいています。



1,753人も参加者が新緑の中を爽快地駆け抜ける中、その裏ではたくさんスタッフとボランティアの人たちが同じように汗を流し、今回のイベントを盛り上げました。その数は総勢282人。準備は早朝から始まり、イベント終了後の後片付けまで、それぞれ担当する人たちの手で行われました。

ランナーが熱中症にならないようにコースに設置された2か所の給水所では、サントリー、熊本YMCA、YMC九州等のスタッフが笑顔で声援したり完走の労をねぎらいながら、参加者に飲物や果物などを提供しました。

昼食の豚汁は、例年調理を行ってきた学校給食センターが熊本地

震により被災したため、町婦人会の皆さんが調理を引き受けました。また、毎年五目御飯を調理していた町婦人会に代わって、陸上自衛隊第五地対艦ミサイル連隊等が炊飯を受け持ち、九州電力職員が炊き上がったご飯のパック詰めを行いました。各団体の協力と連携により、調理、配給された2,200人分の豚汁とご飯は、ジョギングを楽しんだ参加者と大会を支えた役員のお腹を満たしました。

大会の人気を維持できているのは、参加賞や催しの内容だけでなく、大会を陰で支える多くのボランティアなどの、「大会を成功させよう」「参加者に満足して帰ってもらいたい」という共通の想いとたくさん笑顔があるからです。そ